■北京報告　2012 年 3 月 5 日～8 日

北京にて昨年に続いて第二回目のボバース小児インフォメーション講習会が、森之宮病院名誉副院長・ボバースシニアインストラクター紀伊克昌先生・同院永島智里の２名を指導者として行いましたので報告いたします。

国内小児基礎講習会（大阪８週間コース）終了直後の 2012 年 3 月 5 日（月）～8 日（木）北京は河もまだ凍る時期の開催となりました。講義、デモンストレーション（痙直型 1 例、アテトーゼ型 1 例、乳幼児 1 例）、実技指導等のプログラムを 4 日に凝縮して行います。

中国には未だ講習会を開催できるインストラクターは居ないため、成人講習会もボバース記念病院・森之宮病院の双方からインストラクターが技術協力を行っています。

小児に先立ち３年前より始まった成人ボバース認定基礎講習会は、中国の中でも高い評価を得ており、指導者を目指すセラピストもトレーニングを開始しています。

今回の小児インフォメーションコースは、成人認定基礎講習会を受講したセラピスト常冬梅（理学療法士）氏を介し、小児責任者 Zang Qi 氏からの依頼から始まりました。

『脳性まひに対するリハビリ治療は流行っていますが、科学的、効果的治療法や考え方がなく、治療費もほぼ自費であり、障害児および親たちはすごくかわいそうです』（原文のまま）

一方、20 年前 JICA の研修としてボバース記念病院で半年間過ごした陳小梅 作業療法士が、現在治療現場を離れた外事主管という立場から、研修当時に衝撃を受けたセラピーを中国の子どもたちに受けさせたいという想いで依頼を後押しし、長年にわたる紀伊克昌先生への強い要請を受けるかたちで一昨年に初回開催となりました。

中国康复研究中心（China Rehabilitation Research Center）小児の教育プロジェクトチームの働きかけにより中国各省代表施設より 28 名が受講。一昨年には全ての受講生が施設推薦の参加で平均年齢経験年数も高く落ち着いた雰囲気であったのに対し、今年は実際に治療現場で子どもたちの治療に悩む若いセラピストも半数を占める受講者層でした。

今回は初日の講義・治療デモンストレーションに次いで、最終日にホームマネージメント講義の後、同じケースを再度招いて治療・家族指導のデモンストレーション行うことで、治療のキャリーオーバーと家族指導・日常管理を同時に受講生に指導する形式を試みました。終了時には、多くの質問で時間を区切らなければスケジュールが進まないほどの熱気のある４日間となりました。

会場の歴史ある建物はすでに老朽化しており、2 年後には講習会会場を含め新しく施設を建設する予定だそうです。新しい講習会会場では是非８週間の小児基礎講習会を開きたいという要望が昨年のインフォメーションコース終了時にも聞かれましたが、今年は建設計画とともにさらに熱を帯び、施設長・小児担当主任・教育担当主任等管理層の取り組みは昨年よりも一層力のこもった姿勢が伝わってくるものでした。中国のボバース治療の中心としてコース開催される事もそう遠くはない時期に訪れることが予感された講習会でした。（報告：森之宮病院　永島智里）

中国康复研究中心
CHINA REHABILITATION RESEARCH